

# はしがき

本報告書は、神戸大学大学院国際文化学研究所異文化研究交流センター（Intercultural Research Center、通称 IReC [アイレック]）の2013年度研究部プロジェクト「EU アイデンティティの構築とその政治的意義」、及び国際部の活動をもとに編集した。

## 1. 研究部プロジェクトについて

プロジェクト名：EU アイデンティティの構築とその政治的意義

代表者：坂井一成（総括、フランスと EU アイデンティティの相克）

分担者：村尾 元（EU アイデンティティの構築について、社会システム科学の観点から）

岩本和子（文化のなかの政治、ベルギー・アイデンティティ）

藤野一夫（文化政策からみた EU アイデンティティ）

近藤正基（ドイツ・キリスト教民主同盟の移民政策）

齋藤 剛（地中海・北アフリカから見た EU）

青島陽子（ロシアから見た EU）

清川祥恵（イギリス・アイデンティティの位相）

本プロジェクトは、2008年度から5年間にわたって IReC で蓄積してきたヨーロッパ研究プロジェクト（「多言語・多民族共存と文化的多様性の維持に関する国際的・歴史的比較研究」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——多民族共存への多視点的・メタ視点的アプローチ」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——その理念、現実、表象」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU——言語、文化、ジェンダーをめぐる」「EU の内と外における共生の模索」）の延長線上に位置付けられるものである。

本プロジェクトの目的と活動は以下のとおりである。

### 〔目的〕

EU は、戦争からの経済復興とともに仏独間の戦争再発を防止するという、すぐれて政治的文脈なかで進展してきた。昨今の通貨・信用危機においても、これをいかにして克服するかという政治的意図・行動が問われてきた。一方、政治統合を推進する過程においては、うわべだけの技術的な統合にとどまることなく、政治的運命共同体の構築のために、アイデンティティをはじめとした文化的側面の凝集性を高めることの必要性も繰り返し指摘され、実際 EU としても文化政策・教育政策を通じてそうした対応を推進してきている。ここにおいて EU は、文化面では「EU 文化」を掲げて統一するような手法ではなく、逆に既存の国家レベル・地方レベルでの文化の多様性を最大限担保し、そうした文化的なりべリズムを守るところにこそ EU の意義を強調してきた。

こうした過程で生み出されてきた「EU アイデンティティ」とはいかなるもので、いかなる政治的役割を担っているのか。換言すれば、EU 統合における政治と文化の関係はどのように理解することが適当なのだろうか。国家レベルで考えるならば、国内政治においては政治文化や文化政策、対外関係においては安全保障文化や文化外交という概念において政治と文化の接合が論点となる。これを EU に照射するとき、どのような側面が出てくるのか。こうした論点について、これまでの IReC の研究蓄積をふまえつつ、本研究プロジェクトでは掘り下げることにした。

### 〔活動〕

講演会（全3回）と、ブリュッセルでの国際ワークショップを実施した。

講演会は以下のとおりである。

1. 2013年7月25日 川村陶子（成蹊大学）「ドイツ対外文化政策の変容——ヨーロッパ統合進展の中で：新たな一歩か、原点回帰か」

2. 2013年8月1日 仙石 学(西南学院大学)「分断から統合へ?—ポーランド国境における「分断された領域」のシェンゲン後を比較する」
3. 2013年10月31日 坂戸 勝(ベルリン日独センター)「日独の文化交流政策の変遷と課題」

そして、神戸大学「平成25年度ブリュッセルオフィスを拠点とするワークショップ等助成事業」及び神戸大学国際文化科学研究科「平成25年度研究教育プロジェクト」の助成を得て実施した、日欧国際ワークショップ「ヨーロッパアイデンティティの形成とその政治的意義—ヨーロッパ統合における政治と文化の接合」(2014年3月4日、ブリュッセル自由大学(フランス語系)欧州研究所)も、本プロジェクトの一環に位置付けられる。

本ワークショップでは、プロジェクトメンバーからは、岩本が司会を務め、坂井・村尾が研究報告を行い、青島が討論者として参加した。報告は以下の通りである。

1. François FORET (Université Libre de Bruxelles: ULB) “Between Culture and Politics: Symbolic Communication in the EU”
2. SAKAI Kazunari (Kobe University) “Enlargement of the EU and Struggle to Coexist with Cultural Others”
3. MURAO Hajime (Kobe University). “Identifying the City Personality from Text Messages transferred over the City”
4. Juan DIEZ MEDRANO (Universidad Carlos III de Madrid) “From Marriage to Europe”

本報告書では、このうち坂井論文、村尾論文を掲載している。また、討論者を務めた青島が、ワークショップの成果を踏まえ、クリミア問題で緊張が高まるなかで行ったウクライナ、ロシアの訪問調査に基づくエッセイを掲載した。

## 2. 国際部の活動について

国際部では、海外の主に協定校から招いた講師による講演会等を行っている。今年度もヨーロッパの大学からが中心であったが、世界の仏語圏文学、ヨーロッパの政治、日欧文化交流や文化・環境政策などの多様なテーマとなった。学术交流の推進とともに、交換留学やダブルディグリープログラム留学への意識を高めることもできた。講演は以下のものであった。

1. 2013年5月27日 “La littérature francophones septentrionales: constances et convergences” 「北方フランス語圏文学の特徴と共通性」 Jean-Marie Klinkenberg (リエージュ大学名誉教授)
2. 2013年10月1日 “European vision of the global geopolitical dynamics in comparison with the Asian (and Japanese) perspectives” Fabrizio Eva (ヴェネツィア カ・フォスカリ大学契約教授)
3. 2013年12月24日 “Japanese Studies in Belgium, Belgian Studies in Japan” 「ベルギーの日本研究/日本のベルギー研究の現在」 Dimitri Vanoverbeke (ルーヴァン・カトリック大学 [KULeuven] 教授)
4. 2014年3月3-4日 連続講演会『日独の地域再生のストラテジー—文化政策と環境政策の出会い』: 「丹生(三重県多気町)から学ぶ持続性」 清水裕之(名古屋大学大学院教授、文化経済学会〈日本〉代表)、「ドイツの人口減少地域における文化的再生のストラテジー」マティアス・フォークト(ゲルリッツ大学教授、ザクセン文化基盤研究所所長)、「開講都市の交易と近代化—南蛮屏風の表象から読む」ノラ・ウザノフ=ガイスラー(ベルリン自由大学研究員)

また、昨年に続きブリュッセルにおいて、IReCの共催、サン-ジョス区(ブリュッセル)文化委員会の後援、ブリュッセル王立音楽院声楽科の協力により国際研究会(ベルギー研究会、代表岩本)を開催し、本研究科教員およびグローバル人材育成事業の一環としてEU文化研修で渡欧中の本研究科学生と、在欧のベルギー研究者や音楽院の教員、学生との学术交流活動を行った。研究会第1部は神戸大学ブリュッセルオフィスを会場とし研究発表と討論、第2部はシャルリエ美術館を会場とし講演と演奏会を行った。EUの中心であり多言語・多文化状況のベルギーをめぐる社会・言語・文化状況や芸術文化の諸相に多様な視点からアプローチし、考察した。

## 第1部 研究発表（日本語）

1. 「我々と奴ら」の変容」石田まりこ（ブラッセルインター校）
2. 「公的権力の存在を前提としない「事実上の正書法」の固定化」石部尚登（日本大学理工学部助教）
3. 「独立後のベルギー王国におけるナショナル・アイデンティティ形成への音楽の関与——ブリュッセル王立音楽院の音楽理論教育に焦点をあてて——」大迫知佳子（日本学術振興会海外特別研究員・ブリュッセル自由大学）
4. 「聖なる画中画——ペトルス・クリストゥス作《若い男性の肖像》に描かれた「聖顔」と贖宥——」杉山美耶子（ヘント大学博士課程）

## 第2部

### 講演

1. 「ベルギー美術史」の諸相—初期フランドル派からシュルレアリスムまで—（英語）  
利根川由奈（京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程）
2. 「ブリュッセル芸術サロン〈自由美学〉とマーテルランクとその周縁」（フランス語）  
正木裕子（ベルギー王立ブリュッセル音楽院声楽科講師）

### 演奏会

〈世紀末のフランス・ベルギー文学と音楽〉 ブリュッセル王立音楽院声楽科 正木研究室

以上のように、国際的な視野から多面的な研究活動が進められ、次年度以降への発展の見通しもたてられた。関係各位に深くお礼申し上げたい。

坂井一成（国際文化学研究科教授、異文化研究交流センター研究部長）

岩本和子（国際文化学研究科教授、異文化研究交流センター国際部長）